



はな たいよう ほう む さ ヒマワリの花は、どうして太陽の方を向いて咲くの

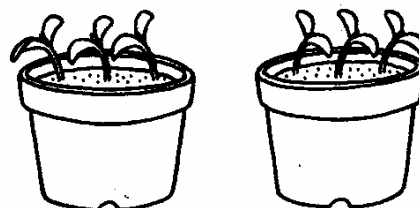
はな たいよう ほう む さ たいていの花が、太陽の方を向いて咲く

ヒマワリは、種^{たね}の油^{あぶら}をとるために、ヒマワリ畑^{はたけ}が作^{つく}られ、たくさんの花^{はな}が咲^さいています。そこで、花^{はな}がどちらの方向^{ほうこう}を向^むいて咲^さいているか調^{しら}べると、北^{きた}を向^むいている花^{はな}はありませんが、やや東^{ひがし}、西^{にし}、南^{みなみ}と、少^{すこ}しずついろいろな方向^{ほうこう}を向^むいていることがわかります。いちばん多^{おほ}いなのは、南^{みなみ}を向^むいている花^{はな}なので、動^{うご}く太陽^{たいよう}の方^{ほう}を向^むいているといえ、そういえま^す。でも、たいていの花^{はな}が、少^{すこ}しでも日光^{にっこう}がたくさんあたるように、太陽^{たいよう}の方^{ほう}を向^むいて咲^さいています。

たいよう お 太陽を追いかけるときもある

つぼみができかかったころのヒマワリは、くきの先^{さき}が若^{わか}い成長^{せいちょう}の最^{さい}中^{ちゆう}なので、太陽^{たいよう}を追^おいかけるように、朝^{あさ}は東^{ひがし}、夕^{ゆう}方^{がた}は西^{にし}と、動^{うご}きます。くきの成長^{せいちょう}を進^{すす}める成分^{せいぶん}が、光^{ひかり}のあたら^{あつ}ない方^{ほう}に集^{あつ}まり、そこがのびるため、くきは光^{ひかり}の方^{ほう}に曲^まがるからです。どんな植物^{しょくぶつ}も、おなじしくみになっているため、光^{ひかり}が一方^{いちほう}向^{こう}からしかこ^こない場所^{ばしょ}に生^はえた植物^{しょくぶつ}は、光^{ひかり}のあたる方^{ほう}へ、曲^まがって成長^{せいちょう}していきます。

シロタエヒマワリは、最^{さい}初^{しよ}に咲^さく花^{はな}から三^{さん}番^{ばん}目^めに咲^さく花^{はな}までは、午^ご前^{ぜん}7時^じ～午^ご後^ご4時^じまでの間^{あいだ}、花^{はな}の下^{した}の部分^{ぶぶん}が太陽^{たいよう}の動^{うご}きにあわせ、東^{ひがし}から西^{にし}へ、首^{くび}をまわ^{まわ}す運^{うん}動^{どう}をしていることが知^しられています。(監^{かん}修^{しゆ}・矢^や野^の 亮^{りやう})



若^{わか}いくきは、太陽^{たいよう}を追^おいかける

